

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	そだちの空間LINKS 伊川谷北教室		
○保護者評価実施期間	令和7年10月1日	～	令和年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	令和7年10月1日	～	令和7年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月4日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の将来を見据えた支援を重視し、日常の関わりの中で『気付き』を引き出す声掛けを意識的に行っている。自ら考え行動する力、自ら気持ちを発信する力の育成に取り組み、主体性を伸ばす支援体制が確立されている。	・児童が自ら考え行動できるよう、声掛けのタイミングや内容を工夫している。 ・『気付き』を引き出すために、日常の活動や遊びの中で小さな選択や判断を経験させている。 ・児童が発信したいことを安心して表現できる関わりを行っている。	・活動や遊びの中で振り返りの時間を取り入れ、気付きを言語化する機会を増やす。 ・個々の興味・関心に応じた体験活動を拡充する。 ・児童が自ら考え行動できる力をさらに伸ばす支援を強化する。
2	学習時に児童一人ひとりの特性や発達段階に応じた学習方法を取り入れ、理解しやすく取り組みやすい環境づくりに力を入れている。個々のペースに合わせた指導や支援を行うことで、学習意欲の向上や達成感の実感に繋げている。	・視覚的要素（イラストや図・色分けなど）を取り入れた説明で理解しやすく工夫している。 ・児童一人ひとりの特性に応じた学習プリントを作成し、取り組みやすい教材を提供している。 ・個々のペースや理解度に合わせて指導方法を柔軟に調整し学習意欲を引き出す工夫を行っている。	・視覚的教材や学習プリントの工夫をさらに充実させ、理解の定着を図る。 ・個々の特性に応じた学習方法のバリエーションを増やし主体的に学べる環境を整える。 ・保護者と連携し、家庭でも学習の理解や習慣を支援する工夫を共有し、達成感を高める。
3	毎日の活動プログラムを工夫し、児童の発達を促し5領域(運動・認知・社会性・言語・生活習慣)に沿った内容を組んでいる。同じような活動ではなく、日ごとに多様で新鮮な取り組みを提供しているため、児童が意欲的に参加できる環境となっている。	・活動の準備や進め方を、児童一人ひとりの発達段階に応じて変えている。 ・児童が『もう1回したい!』と思えるよう、興味・関心に基づいた活動を取り入れている。 ・各活動ごとに目的とねらいを明確にし、児童が意図を理解して取り組めるように工夫している。 ・日々の活動が多様で新鮮になるよう、同じ活動が続かないように計画している。	・個々の発達段階や興味に応じた活動の幅をさらに広げる ・活動の目的やねらいをよりわかりやすく伝え、理解の定着を図る。 ・活動を通して学びや達成感を実感できるようにする。 職員間で情報共有をし、より効果的で工夫されたプログラムを提供する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部との関わりがまだ十分ではなく、児童の社会的経験や多様な刺激の機会が限られている。昨年より増加は見られるものの、十分に充実しているとは言えない状況である。	・活動時間や人員配置の制約により、外部との交流の機会を十分に確保できていない。 ・外部機関や地域団体との連携体制が十分に整っていない ・企画や情報収集の面で職員が外部活動のアイデアやネットワークを十分に活用できていない。	・外部機関地域団体との連携を強化し、交流の機会を計画的に増やす。 ・活動時間や人員配置を工夫し、安全に配慮した外部活動を実施できる体制を整えていく。 ・職員間で外部活動の情報やアイデアを共有し、企画力や実施力を高める。
2	・研修で学んだ内容が実際の支援場面で十分にいかされていない場合がある。 ・職員間で研修内容の共有や振り返りが不十分で、対応の統一や質の安定に課題がある。 ・研修後のフォローアップや定着の仕組みが整っておらず、実践力向上に時間を要する。	・研修内容が現場での具体的な支援場面に十分結びついていない。 ・学んだ内容を実践に移す為の振り返りやフォロー体制が不十分。 ・実践経験の差により、対応のばらつきが生じている。 ・職員間で支援方針や対応方法の共有に不足がある。	・研修内容を具体的な支援場面に落とし込み、実践に活かせる形で指導を行う。 ・研修後に職員間で振り返りや情報共有の場を設け、対応の統一と質の向上を図る。 ・経験が浅い職員への実践的なサポートや指導体制を強化する。 ・実践事例の記録・分析を行い、課題や改善点を明確にして次回に活かす。
3	・これまで卒業・移行を迎える児童がいない為、進路や移行支援に関する知識や経験が十分ではない。 ・将来の自立や社会参加に向けた具体的な支援方法の蓄積がなく、今後の課題となっている。	・卒業や進路支援の実践経験が少なく、具体的な対応事例の蓄積がない。 ・利用している児童の年齢層が低かったのもあり移行支援を意識した取り組みが後回しになりやすかった。 ・将来を見据えた支援計画の立て方や情報共有の体制が十分に整っていない。 ・移行支援事業所に見学は行ったが連携の機会が限られている。	・進路・移行支援に関する研修や勉強会へ積極的に参加し知識と、理解を深める。 ・他事業所や学校、就労支援機関などとの連携を図り情報交換や事例の共有を行う。 ・保護者とも連携し、児童の将来像や希望を共有しながら支援の方向性を整える。 ・卒業児童をもつ事業所を見学・交流し、移行支援の実践的ノウハウを学ぶ。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		そだちの空間LINKS 伊川谷北教室				公表日		年月日		令和7年11月1日現在		利用児童数		24名(兄弟あり)		回収数		19名	
環境・体制整備	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見		ご意見を踏まえた対応											
						1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	95%	5%			活動内容によるが、確保されているのではと思います。	今後は各活動ごとに安全確認のポイントを明確にし、児童が安心して取り組めるよう環境作りを努めてまいります。						
2	職員の配置数は適切であると思いますか。	95%			5%	先生方が一人一人をしっかり見れている配置数だと思います。	今後も児童一人ひとりの様子を丁寧に観察し、安全面、支援面に配慮した配置を継続してまいります。												
3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100%				設備についてですが、冬場の手洗い歯磨き、食器洗いなどの時は、水ではつらいと言っている。お湯がでるよう改善してほしい。	導入の可否や時期については、安全面、費用面も踏まえて、職員で協議しながら検討させていただきます。												
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%				学校で使用している机や椅子で学習や活動をしてくれるので、学校の慣れない子供にとってありがたい。	引き続き学校に近い環境づくりを意識し必要に応じて、個々の児童に合った学習環境の調整も行なってまいります。												
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	95%			5%	専門性のある目線からのアドバイスがもらえる。私たちの思いをとて汲み取っていただいて、感謝しています。	左記のお言葉を受け、今後も児童一人ひとりの特性を理解して寄り添い、安心して相談いただける体制を維持し、丁寧な支援を継続してまいります。											
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%				集団が苦手な子供や学習が苦手な子供にとても合っていると思います。学習面の支援と療育内容がバランス良く行われています。	今後も支援プログラムに沿って一人ひとりの特性に応じた支援を継続してまいります。											
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	95%			5%	分かりやすくして頂いていると思います。	計画を作成する際は児童の特性を分析し、理解しやすい内容となるよう工夫を心がけておりますが、疑問やご要望があれば指摘ください。											
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	95%			5%	詳しい内容になっていると思います。	今後も児童一人ひとりの状況に応じた明確で実践的な個別計画を継続してまいります。											
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%				計画に沿った支援が行われていると思います。	今後も計画に基づき、児童に寄り添った適切な支援を継続してまいります。											
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100%				学校や家庭では経験できないような活動プログラムが組み込まれている。年齢が上がっても楽しめる多様なプログラムを工夫して作って下さる。	5領域に沿ったプログラムで、年齢や発達に応じて楽しみながら取り組める多様な活動を工夫し児童の興味関心に寄り添った支援を継続してまいります。											
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	75%	5%	5%	15%	地域の子どもに限らず、地域のお年寄りの方との交流もあり、良い機会だと感じた。他の事業所との運動会が楽しかったのもまたやって欲しいです。	地域の児童との関わりがない為今後は検討してまいります。地域や他事業所との関わりを通じて児童の社会性や経験の幅を広げる活動をしてまいります。											
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%				契約の時にありました。	今後も保護者の皆様にわかりやすく丁寧な説明を継続してまいります。											
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	95%			5%	詳しく説明していただきました。	今後も保護者の皆様に分かりやすく丁寧な説明を心がけていきますが、ご不明点がございましたらお問合せ下さい。											
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	95%			5%	家族も参加できる研修があれば嬉しいです。	ご家族様も参加できる研修の実施についてご希望をいただき、今後は家族の皆様が学びや交流に参加できる機会の検討・工夫を行ってまいります。											
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	90%			10%	日々子供の状況を気にかけて頂いている。ノートの内容、送迎時の話から共通理解出来ていると感じる。	今後も連携を大切に、児童の状況や支援内容を保護者と共有しながら支援を継続してまいります。											
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	90%			10%	問題が起きた時はその都度迅速な対応やフォローをしていただける。子どもの事を親よりも肯定して下さり親子共に励まされました。	今後も安心して過ごせるように、寄り添った支援と、丁寧な関わりを継続してまいります。											
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%				共感的な支援だけではなく、不十分な部分に対しても、指摘やアドバイスを頂ける。	児童の成長につながる具体的な助言を行いながら支援を継続してまいります。											
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	95%	5%			年に数回行われる保護者会や参観で意見交換や情報交換ができて、良い機会となっている。保護者会の雰囲気もとてもよかった。	保護者の皆様に参加しやすく、安心して交流できる雰囲気づくりを継続し、保護者様同士の繋がりを大切にしてまいりたいと思います。											
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	95%	5%			家庭と学校間での相談事に対して放デイと学校で対応し解決して頂けたことがある。学校や保護者との問題事には即行動して下さり、解決へ努めて下さった。	今後も児童の生きやすさを一番に考え、保護者や学校と連携し、児童の安心・安全を第一に迅速な対応を継続してまいります。											

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%				こちらから相談できていない時も定期的に様子を聞いて下さる。	今後も継続的に観察・連絡を行い、児童と保護者の安心につながる支援を継続してまいります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	100%				写真や動画と説明をLINEで下さりとても分かりやすい。HPやSNSを見ていないので分からない	児童の様子や情報が保護者に伝わる方法を工夫するとともに、ホームページ等も個人情報についての細心の注意を払いながら、改善できるよう検討してまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	95%			5%	個々に書類を渡したり、袋に入れて対応して下さいます。	今後も児童や保護者の情報を安全に管理し、適切な取り扱いを継続してまいります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	95%	5%			訓練は実施されています。とてもリアルな訓練をされています。(事前にパニックなども考慮されて)	適切な支援や対応ができるよう、研修・訓練を引き続き行ってまいります。児童は月1回様々な想定で訓練を実施しております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	100%				マニュアル化された訓練だけではなくいろいろな災害に応じた訓練をしてくれる	実践的で多様な状況に対応できる訓練を継続してまいります。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	95%	5%			安全を確保する必要がある場合は事前に保護者へ確認と連絡を必ずいれて下さる。	今後も児童の安心と安全を第一に、保護者との連携を徹底してまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	100%				怪我をしたときは処置とともに写真が送られて、詳しい説明をしてくれた。	今後も急を要する事故が無いように職員間の連携を図りながら活動を行ってまいります。保護者が安心できるよう迅速かつ丁寧な対応を継続してまいります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	95%	5%			悩み事や困りごとがあると、自ら職員の方へ相談している。安心できる居場所になっている。先生の事をとても信頼しており安心できる場所の一つだと思います。	楽しく通っていただけることが成長へ繋がりますので、今後も信頼関係を大切にし、安心して過ごせる環境づくりを継続してまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	95%	5%			利用児童同士の仲の良い様子が伺える。嫌がることなく毎回楽しみにしています。利用のない日も行きたいと言います。行けば楽しいが、行きたいと言わない。	児童同士がとても仲良く助け合える環境にあります。リンクスに行きたい！と思ってもらえるような環境づくりを継続してまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	95%	5%			注意されることがあっても本人が納得して解決をし、次の行動にとっても良い影響があるとあります。とても満足しています。他事業所の利用は考えられません。	ありがとうございます。子どもたちの人生を預かり、成長のお手伝いができる事を私共も感謝しております。今後も子どもたちと共に成長してまいりますので、ご指摘いただけますようお願い致します。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名						公表日	年	月	日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		児童の人数に応じて十分なスペースが確保されており、安全に配慮している。体を動かす活動にも対応できるようその都度机を動かしてスペースを確保している。	引き続き動線を確保しながら実施	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		100%		児童数や支援の必要性に応じて職員が配置されているが、送迎時に職員が手薄に感じるときもある。	人数の変化に応じて送迎ルートの配慮が必要。児童の安全第一で配置を検討。			
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		100%		廊下から外に出る扉があるため飛び出しの危険がある児童は見守りを行っている。	バリアフリーを必要とする児童が来所の際施設内の段差・安全面の配慮が必要。廊下扉の施錠ができる事が確認できた為今後は施錠をする。			
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		100%		日々の清掃や整理整頓を心がけ、衛生的で心地よい環境を心がけているが、車内など不十分な所もある。	チェック表などの作成による意識改革			
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		100%		児童の気持ちの切り替えや落ち着きが必要な際には、個別のスペースを使用できる体制が整っている。	引き続き実施する。落ち着ける物を提供するなど。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%		定期的なミーティングで課題を共有し職員全体が改善案の検討・実施・評価の参加。PDCAサイクルを意識できるように徹底。	引き続き実施し、研修を実践に活かせるような機会を作る。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		年に1度の保護者評価表や日々の連絡帳・面談などで、保護者の意見を把握し、運営や支援内容の改善に反映している。	評価表は年に1度だが、必ず職員で内容を共有し、会議を行っている。引き続き実施。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		月初めに会議を行い、日々の振り返りで意見を共有し、支援内容の改善につなげている。	引き続き情報共有・振り返りを行う。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%		神戸市の巡回支援の方や、ボランティアの方のご指摘や助言をもとに業務改善を行っている。	外部の方とのネットワークを広げ今後も評価をしていただきたい。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		職員のスキル向上や知識習得のため、外部研修への参加をするともに、法人内でも研修会を定期的に行い全職員が参加できる体制を整えている。	法定研修以外にも職員のスキルアップを目指して、引き続き実施する。			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		児童の特性やニーズに応じた支援プログラムが作成され、保護者や関係者に公表されている。	今後もプログラム内容を分かりやすく作成し公表していく。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%		発達検査や生活観察、保護者からの聞き取りなど通じて、個別アセスメントを行い、その結果をもとに計画を作成し、定期的に見直しをし成長や変化に対応している。	今後も同様に実施していくと共に職員間での共有を心がける。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		児童管が中心となりつつも、日々支援にあたる全職員でアセスメントを行い、その結果や個別記録を共有し、最適な支援方法や環境整備を検討して作成。	社員だけではなく、パートさんも参加できる機会を作っていく。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		計画表は全職員で共有され、児童一人ひとりの支援に反映している。個別記録に目標を細かく記載しチェック、職員間で情報を確認しながら支援を行っている。	今後も周知・共有を継続していく。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		標準化されたアセスメントをもとに、日々の観察や職員の気づきを含むものも活用して計画書へ反映している。	日々の変化に対応できるよう定期的に内容を検討していく。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		計画書は本人支援(学習・生活・社会性)家族支援(相談・助言)、移行支援(学校卒業時の準備)地域支援(地域活動の参加)などの観点を踏まえ、児童に必要な項目を設定している。その上で具体的な支援内容が明確に計画され、職員間で共有・実施している。	計画内容については会議等で周知をしているがガイドラインの詳しい内容周知の差が個々である為、ガイドラインを確認する時間を設ける。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		職員全員で5領域を意識して意見を出し合い立案している。(子どもの特性や興味をふまえて)	今後もプログラムに偏りが無いよう全体で立案を行う。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		曜日などを考え、固定化にならないよう毎月違うものを用意している。(季節や興味をふまえて)同じ物は1年以上間隔を開けている	繰り返し行う事が成長に繋がるプログラムもあるため、毎月行っているものもあるが内容は変えている。			

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%		主に集団活動ではあるが、必要に応じて個別での活動も組み込み支援を行っている。	引き続き職員間で連携をとり、集団・個別の切り替えを行っていく
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		活動プログラムの目的やねらいの周知とどういった導線の確認を行ってから支援をしている。	送迎等で確認時間がないときは直前に話し合うことになってしまうため職員間のグループラインなどで共有を取り入れる
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		その日に必ずフィードバックを行うよう心掛けてはいるが、送迎後時間のない時は次の日に必、意見の交換、改善点の共有をし、次の支援に繋げている。	業務時間外になってしまう時は、次の日の午前中に行い職員用グループラインでの共有を取り入れ、時間外を減らす。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		個別記録をとり、個々の成長や困りごとなど小さな事も、共有し支援改善に反映。	今後も個別記録・日報の確認を継続し疑問点があれば確認を行う。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		計画書に基づく支援の進捗や、児童の様子を定期的に確認し、必要な場合は計画の見直しを行っている。	今後も半年に一度全職員でモニタリングを実施していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	100%		生活・学習・余暇・社会参加の活動を組み合わせながら、児童が楽しみつつ学べる支援をしている。社会参加は昨年に比べて増えている。	ガイドライン認知・周知が個々で差がある為会議などで認知・周知を深めていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		活動や順番グループ決め等、児童自身に選ばせる機会が多く、日常の支援の中で自己決定の機会を多く設けている。児童が具体的に考え判断できるよう促す支援をおおいに実施している。	今後も子どもの成長に合わせ、尚且つ個々の意見も尊重しながら自己選択・決定できる環境づくりを行う。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		現時点で相談支援事業所とのサービス担当者会議は実施されていないが、関係機関との会議には児童の特性や支援状況をよく理解している職員が参加している。	将来の事を見据えて相談支援を推奨するとともに、今後は相談支援事業所とも繋がりをもっていきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		地域関係機関と連携しながら、情報共有や支援方針の調整を行い、児童にとって最適な支援体制をとっている。	障害福祉・医療・教育部分は整えているが保健部との連携が薄いため今後は連携を図りたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%		学校と日常的に情報を共有し、トラブル時の対応にすみやかに、かつ適切に対応を行っている。	今後も迅速・適切・丁寧な対応を続けていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	15%	85%	現状では就学前の保育園・幼稚園との情報共有はできていない。	今後児童のスムーズな支援につなげられるよう検討。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	15%	85%	現時点で卒業する児童がないが情報共有、相談はしていきたい。	今後卒業をし移行先への支援内容の情報提供ができる体制は整えている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	50%	50%	現時点では児童発達支援センターとの関りはない。	巡回支援などで助言はいただき実践はしているが、今後の支援の質向上に向けて連携の機会を検討している。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		100%	現時点では他の子どもとの交流機会がない。	今後の社会性向上や地域連携の為検討中。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	15%	85%	現状では自立支援協議会への参加は十分に行えていない。同じ地域の教室の人に内容を報告してもらい、情報共有を行っている。	今後は地域と連携強化のため、参加を増やしていけるよう検討。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		送迎時の声掛けや、連絡帳、定期面談を通して保護者と子どもの状況を日常的に共有している。	今後も家庭と事業所で一貫した支援が行えるよう共通理解を持てる関わりを継続していく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		家庭での対応がスムーズになるよう、保護者とペアレントトレーニングや相談支援を行い、家族支援の充実にも努めている。	保護者からの要望があれば研修実施も検討するが、こちらからの発信も行う
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		契約時・更新時に重要事項説明書・契約書を用いて内容を丁寧に説明している。	引き続き丁寧な説明を実施。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		計画作成時に面談を実施し、保護者の意向や家庭の様子を反映した支援内容を設定している。	引き続き児童発達管理責任者が説明のもと作成を実施。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%		面談時に計画書を提示し、支援目標や方法をわかりやすく説明している。	引き続き児童発達管理責任者が説明を行い疑問点の確認を行い同意を得る。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		送迎時や連絡帳、LINEでのやり取り、面談などで保護者の相談に丁寧に応じている。	引き続き支援者の目線・ご家族の目線・子どもの目線を合わせたうえで助言を行う。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	100%		保護者交流会(参観・保護者会)の機会を設けており、意見交換や交流ができています。	きょうだいの相談や助言は行っているがきょうだい同士の交流はないため、今後取り入れていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		苦情受付担当を明示し、内容を共有・検討のうえ誠実に対応をしている。	今後は苦情のないような支援・対応を行ってきたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		活動の様子や連絡事項を連絡帳やLINEで発信している。	HPやSNSの活用ができていないため個人情報に注意しながら、考慮していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		個人情報保護に関する規程を設け全職員に周知・徹底している。	些細な書類でも管理を徹底的に行う。鍵付き書庫の活用。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		送迎時の声掛け・連絡帳・LINE・電話などを通じて丁寧な意思疎通を行っている。	引き続き配慮を行う。必要に応じて研修などの実施を検討。
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		100%	現在は地域住民を招いた行事は実施できていない。	今後は地域理解と連携を深める為、検討をしている。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		各種マニュアルを整備し(緊急時・災害時・感染症など)職員研修を定期的に行っている。	研修内容も毎年同じにならないよう工夫している。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		BCPを策定し、災害時や感染症流行時に備えた対応体制を整えている。	職員研修は行っているが、周知していても実行・実践に移す際に不安があるので疑似体験を検討する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%		利用前に健康状態を確認し、必要に応じて医師や保護者と連携をしている。	今後も医師・保護者との連携をとり状況の把握・共有を引き続き行う。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	85%	15%	アレルギーの状態を把握し誤食防止のため職員周知を行っているが、医師の指示書の確認はできていない。	一目見てわかるように表等を作成しおやつカードに貼る等工夫を行う。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		定期的に避難訓練や安全確認を実施し職員全体で安全意識を確かめている。	訓練後の振り返りにて反省点を出し合い次回に繋げる。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		訓練・活動を行う際は事前に保護者への連絡と確認を行い、送迎時に報告を行っている。	今後も保護者が安心できるよう安全を第一に連携を行っていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		日々のヒヤリハット事例は日報に記載し職員全体で共有し、再発防止のため、職員全体で話し合いを行っている。	話し合いを行っているが、同じようなヒヤリハット事例に結びつくこともあるので充分ではないと感じるため、再度起こらないための工夫を検討する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		虐待防止に関する研修を実施し、全職員が共通理解を持てるよう取り組んでいる。	研修だけでは把握しにくいこともあるため実際に起きた事例などをネット等で探して周知していくよう検討。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%		契約時に十分な説明を行っている。事業所としての理念・方針が明記された指針を事業所内に誰でも確認できるよう環境整備を行っている。	契約時に説明を行い、方針も掲示しているが今後も虐待防止研修や緊急時対応マニュアルの見直しを行い、より透明性のある運営を図る。